

【特集】東日本大震災からの10年、そして、これから…

—現代行動科学会第38回大会テーマセッションから—

陸前高田市民になりたい

五味 壮平（岩手大学）

陸前高田市に通い続けて10年になろうとしている。この間、訪問は数百回、高田市内在住の知人・友人は数百名となった。日々の仕事においてもプライベートにおいても、陸前高田関連の人とのやりとりが多くなり、高田と関連したことをしている時間が長い。今回は五味が最近、陸前高田でどのような過ごし方をしているか、どんなことに関わっているかを紹介しつつ、なぜそうした現在地にたどり着いたか、時間をさかのぼりながら振り返ってみる機会としたい。

1. 「陸前高田イタルトコロ大学」(2021～)

現在、仕事の一環として最も力を入れているのは、「陸前高田イタルトコロ大学」事業である。これは、陸前高田市内外の住民や組織からニーズ（要望）や提案を、関心や意思を持つ大学関係者（団体・研究室等）にマッチングするというものである。

2. 「陸前高田グローバルキャンパス」(2017～)

イタルトコロ大学は、岩手大学と立教大学が共同で運営する交流・活動拠点「陸前高田グローバルキャンパス」が主催する事業である。同キャンパスは基本方針の1つとして「大学生が絶え間なく訪れる交流のまち、陸前高田への貢献」を掲げている。

3. 陸前高田市 まち・ひと・しごと 総合戦略(2016～)

陸前高田グローバルキャンパスの背景には、「地方創生」のために各自治体に「まち・ひと・しごと総合戦略」の策定が求められ、陸前高田においては、「① 陸前高田への新たな人の流れを創造し、「思民」が集うまちをつくる」という基本方針が掲げられた。そして具体的施策として、「小中学校の空き校舎を利用した市民と学生らの交流活動拠点の設置」（すなわちグローバルキャンパス）が盛り込まれた。

4. 岩大E_codeプロジェクト(2012～)

2012年4月より、当時の学生たちと岩大E_codeプロジェクトを展開し始めた。E_codeは当初紙媒体の情報発信を積極的に行ったが、そのミッションとして、「拡大コミュニティの形成・維持・拡張への貢献」を掲げていた。それは「思民」や陸前高田グローバルキャンパス/イタルトコロ大学が目指すものと重なってくる。ちなみにE_code立ち上げのきっかけは卒業生からの誘い掛けであった。

こうして、試行錯誤を続ける中で、公的にも私的にも、豊かな体験と失敗からの気づき、そして多くの学びをいただいた。この10年の生活の中心に常に陸前高田が存在していた。陸前高田思民の一人になりたいと思うし、また思民でありたいと思う。